

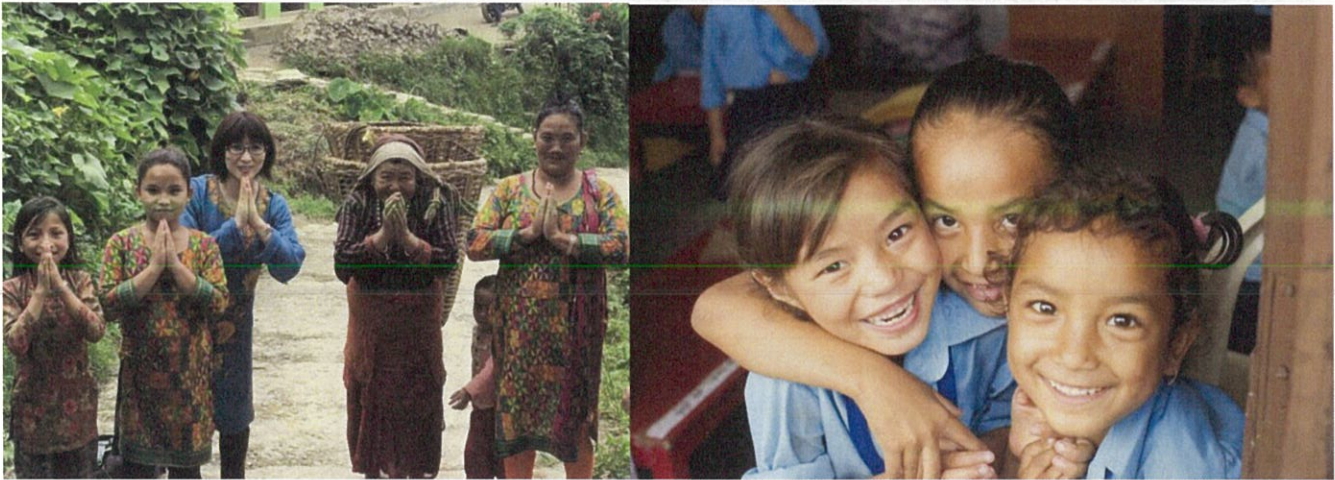
2019年度 JICA 筑波



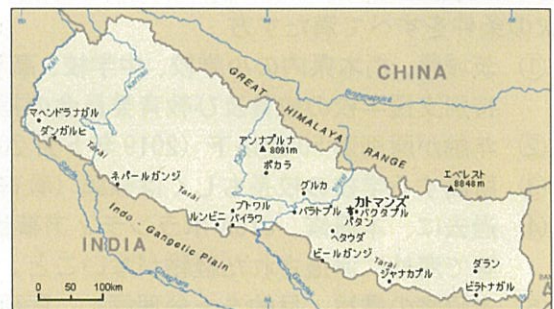
教師海外研修【募集要項】

研修国：ネパール

応募締切
2019年5月20日（月）必着



(写真提供：教師海外研修参加者および青年海外協力隊員/場所：ネパール)



ネパール連邦民主共和国
(Federal Democratic Republic of Nepal)

主催：独立行政法人 国際協力機構 筑波センター（JICA 筑波）

後援：外務省、文部科学省

茨城県教育委員会（申請中）、茨城県高等学校国際教育研究協議会（申請中）

栃木県教育委員会（申請中）、栃木県私立中学高等学校連合会（申請中）

公益財団法人栃木県国際交流協会（申請中）

【研修のねらい】

本研修は、国際理解教育／開発教育に関心を持つ学校教師及び教育委員会の指導主事等（以下、「教師」という）を対象に、実際に開発途上国を訪問することにより、(1) 開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらふこと、(2) 研修参加後、JICA 筑波と協力し、教育現場等で国際理解教育／開発教育を推進する中核となつてご活躍いただくことを目的として実施します。

【研修日程】（予定）

※年間を通じた研修となります

	日程	場所	内容
派遣前研修	6/22（土） 7/6（土）	JICA 筑波	JICA 事業・研修概要・研修国事情等の説明（日程・安全管理）、渡航手続き、交流授業準備、過年度参加者との意見交換、ワークショップ等
海外研修	8/4（日）～ 8/14（水）	ネパール連邦 民主共和国	JICA 事業（技術プロジェクト、ボランティア事業等）の見学及び JICA 関係者との交流、現地の学校訪問、生活体験、教材等の収集
帰国時研修	8/24（土）	JICA 筑波	海外研修の振り返り、情報共有、今後の授業案作り
授業実践	9月～11月	各勤務校	研修で得た情報・教材をもとにした授業実践
報告会（栃木）	1月～2月の 土曜日	とちぎ国際 交流センター	海外研修報告／授業実践報告
報告会（全体）	2/1（土）	JICA 筑波	授業実践報告および意見交換

【応募資格】

次の条件をすべて満たす方

- ① 茨城県、栃木県内の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年生を担当）、特別支援学校の教員及び教育委員会の指導主事の方。
- ② 年齢が原則満50歳以下（2019年5月20日現在）。
- ③ 所属する学校の校長もしくは教頭（教育委員会であれば所属長）の推薦があること。
- ④ 過去に、本研修、JICA ボランティア事業、JICA 専門家等及び ODA モニター／国際協力レポーター等で海外に派遣された経験がないこと。
- ⑤ 本研修の趣旨・目的を十分理解し、同研修の実施及び、以後 JICA が実施する国際理解教育／開発教育支援事業に継続的に協力可能であること。
- ⑥ 原則として、国内研修及び海外研修の全行程に参加可能であること。
- ⑦ 研修国の事情を勘案した上で、参加するに耐えうる健康状態であること。
※参加決定者には、健康に支障のない旨の確認書をご提出いただきます。
- ⑧ 帰国後、2週間以内に海外研修報告書を提出することに同意すること。
- ⑨ 帰国後、本研修の定めた期間内に所属校において授業の実践を行い、当該授業の実践報告書を提出し、JICA のウェブサイトにて一般公開されることに同意すること。
- ⑩ 参加者メーリングリストでの情報共有に賛同いただけること。

※なお、応募者多数の場合は、JICA が実施する国際理解教育／開発教育支援事業に参加された方を選考の際に優先いたします（応募書類に可能な限りご記入下さい）。

【教師海外研修の流れ】

参加決定から報告会まで、1年間にわたる研修の流れをご紹介します。

6月
・
7月

国内事前研修

派遣前研修～海外研修に向けた準備～

国内事前研修では、JICA や ODA についての知識に加え、海外研修の訪問国の現状、開発課題等への理解を深めるとともに、研修後の授業立案に向けて、国際理解教育を実践するためのスキルアップを図ります。また安心して渡航できるよう安全管理、予防接種、査証等についてもご説明いたします。



8月
初旬

海外研修

海外研修

海外研修では JICA や NGO のプロジェクト現場や JICA ボランティアの活動現場を訪問するほか、現地学校の児童・生徒との交流授業や現地マーケット等で教材研究のための素材収集等も行います。



8月
下旬

国内事後研修

帰国時研修～授業実践に向けた準備～

海外研修を振り返りながら、それぞれの情報を共有します。今後、授業でどのように伝えていくか、アイデアを出しながら参加者全員で授業計画を考えます。



9月～
11月

授業実践

授業実践

それぞれの所属校で国内・海外での研修での学びや体験を生かした授業を実践していただきます。子供たちが何を知り、どう行動するようになるとよいか、海外での経験と国内での研修の成果をいかに発揮してください。



2月

報告会

報告会

「海外研修で何を学び、どう授業に生かしたのか」「その授業を受けた児童・生徒が何を感じ、何を学び、どんな変化がみられたのか」「実践を通じてさらに何を考えたのか」など、国内外での研修の成果を報告します。



研修の様子は、JICA 筑波のウェブサイトでもご覧いただけます。

【参加費用】

参加者自己負担経費	JICA 負担経費
<ul style="list-style-type: none">・ パスポート取得にかかる費用・ 予防接種料（必要に応じて）・ 現地での宿泊費及び食費 （※目安として、宿泊費・食費で10万程度）・ 追加保険の加入費用・ その他個人目的の経費	<ul style="list-style-type: none">・ 国内研修時及び出発空港までの往復交通費 *国内の交通費は JICA 規定によりお支払いします。・ 査証代、空港使用税・ 往復渡航費(含トランジットの際の宿泊費)・ 海外旅行傷害保険加入費（JICA 規定分）・ 海外研修に必要な費用（車両備上等）

【研修国】 ネパール連邦民主共和国

【募集人数】 定員 8 名程度（予定）

【応募方法】

応募用紙に必要事項をご記入の上、2019 年 5 月 20 日（月）必着で以下の宛先まで郵送して下さい。

※ご応募の際は所属長の推薦が必要です。

※お送りいただきました応募用紙及び写真は返却いたしませんので予めご了承ください。

※応募用紙は JICA 筑波ウェブサイト（「JICA 筑波 教師海外研修」で検索願います）からもダウンロードできます。ただし押印が必要なためデータでの応募はできません。

【選考および決定通知】

提出書類に基づき選考を行います。選考結果は 6 月上旬までにご本人および推薦者／所属長宛に直接文書を発信いたします。

【報告書の提出】

① 「海外研修報告書」帰国後、2 週間以内に提出していただきます。

② 「授業実践報告書」研修で得られた経験・成果を授業もしくはクラブ活動で実践した報告書（授業実践例）を 2019 年 12 月中旬までに提出していただきます。

※授業実践報告書は、「教師海外研修報告書」として編さんの上、一般に配布されます。また JICA ウェブサイトでも公開されます。

【その他注意事項】

- ① 年休・研修等、研修中のサービスの扱いは所属先の判断によりますので、ご自身でご確認ください。
- ② 本研修では、JICA における労災保険等の適用はありません。所属先の業務出張扱いにて参加される場合は、各所属先の責任において参加期間中の公務上災害に対する補償措置を行ってください。
- ③ 現地の治安状況等により、研修国や期間を変更することもあります。
- ④ 現地での宿泊施設については安全面を考慮し、JICA で手配決定することを予めご了承ください。
- ⑤ 面接の際にかかる費用、および申込書の送料は自己負担となります。また提出いただいた申込書は返却いたしません。
- ⑥ 申込書に虚偽の記載内容が含まれている場合は、選考後でも参加資格が取消になる場合があります。

※研修の対象者として決定された場合においても、他の参加者に迷惑をかける、あるいは決められた活動に参加する意思がないと判断される方については、国内研修中、海外研修中を問わず、研修対象者としての資格を失うことがあります。海外研修中に研修対象者としての資格を失った場合は、移動・滞在費等に係るキャンセル料等、および帰路の旅費も当該者の負担となりますのでご了承ください。

【お問合せ・お申込み】

JICA 筑波 連携推進課「教師海外研修」担当

〒305-0074 茨城県つくば市高野台 3-6

Tel:029-838-1144 Fax:029-838-1776 E-mail: jicatbic-ppt3@jica.go.jp

2019年度 教師海外研修（ネパール）応募用紙

ふりがな		性別	生年月日	年齢
氏名		<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	19 年 月 日	歳
本人現住所	〒□□□-□□□□			
	TEL:	FAX:	E-MAIL:	
渡航時の連絡先	氏名 (続柄:)			
	〒□□□-□□□□			
	TEL:	FAX:	E-MAIL:	
ふりがな 所属学校名 (正式名称)	職名			
	担当教科(学年)		科(学年)	
	部活動(顧問)			
学校住所	〒□□□-□□□□			
	TEL:	FAX:	E-MAIL:	
趣味・特技				
JICA主催の 事業について	1. JICA 主催事業へ参加したことがありますか? <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない 2. あると答えた方は参加したことのある事業にチェックをしてください。(複数回答可) <input type="checkbox"/> JICA 国際協力出前講座(日本人講師)(いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> JICA 研修員の学校訪問(いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> JICA 筑波センター施設訪問(いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> 国際理解教育実践セミナー(いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> 中学生・高校生エッセイコンテスト(いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> 高校生国際協力実体験プログラム(いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> その他(年 月)			
アレルギー・病気等	過去の申込経験		海外渡航の経験	
<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない 詳しくお書きください。	<input type="checkbox"/> ある _____年 <input type="checkbox"/> ない		<input type="checkbox"/> ある _____年 国名_____ <input type="checkbox"/> ない _____年 国名_____ _____年 国名_____	
外国語会話 ※あてはまる項目に ○をご記入ください。	言語	会話が 堪能	意思疎通 が可能	簡単な 日常会話
	英語			できない
写真 (4×3cm または 4.5×3.5cm)				
裏面に氏名を記入				
私は募集要項記載事項をすべて承諾し、この研修の参加を申し込みます。				
2019年 月 日 氏名 ㊟				

なお、応募書類において入手いたしました個人情報、選考および派遣事業のみに使用し、その後は直ちに廃棄いたします。但し、ご要望があれば以下の目的には使用いたしますので、ご同意いただける場合には、該当項目にチェックをお願いします。

国際理解教育関連イベント情報の提供

(5) 今回の海外研修の体験を、今後の教育活動にどのように活かしていられるのか、その計画や方法を具体的に説明してください。なお、現在校務で国際理解教育を担当されていない場合、どのように担当者と連携する予定であるかも、お書きください。

(6) 海外研修国での視察先・内容の希望をお書きください。(理由を明記)
※本研修は、海外の学校見学や児童・生徒との交流を目的とした「教育事情調査」事業とは異なります。
※現地事情等でご希望に添えない場合がありますので予めご了承ください。

どのようにして本研修のことを知りましたか(複数回答可)。

- 職場 (1. 上司から勧められた 2. 同僚から勧められた 3. 直接募集要項を受け取った
4. 募集要項が回覧・掲示されていた)
- JICA (1. JICA 筑波から直接 2. JICA ホームページ 3. JICA 国際協力推進員
4. JICA 広報誌: 誌名)
- 教育委員会 (名称:)
- 各種研修会 (名称:)
- その他 (具体的に:)

所属する学校長もしくは教頭の推薦の言葉をご記入ください。
(本欄は管理職に参加希望を認知いただいていることの確認のために記入いただいております。)

以上の理由により、上記の者を、独立行政法人国際協力機構主催の教師海外研修に参加することを推薦します。

学校名	職務	氏名	⑩
-----	----	----	---

ジャイカ : JICA (Japan International Cooperation Agency) とは

独立行政法人国際協力機構は、開発途上国・地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的として設立された独立行政法人です。主な事業として技術協力（研修員の受け入れ、専門家の派遣、開発調査等）、青年海外協力隊等のボランティア派遣、無償資金協力、有償資金協力、災害緊急援助等を実施しています。

<JICA 筑波はこんなこともしています>

～ 国際理解教育・開発教育支援プログラム ～

◆国際理解教育実践セミナー◆

国際理解教育の概念・手法・実践事例・今後の課題とその解決方法などを学ぶ講座を実施しています。教師海外研修に参加される教員の皆様には、本研修への積極的な参加を期待します。

◆JICA 国際協力出前講座（日本人講師）◆

開発途上国のおかれている現状を知り、日本と開発途上国の関わりへの理解を深めることを目的として、JICA 職員や青年海外協力隊の OB・OGなどを派遣します。

◆JICA 研修員の学校訪問◆

開発途上国のおかれている現状を知り、日本と開発途上国の関わりへの理解を深めることを目的として、技術研修のため途上国から来日している JICA 研修員を学校に派遣します。

* JICA 筑波では、アジア・アフリカ・中南米など 100 カ国以上の国々からの研修員を年間約 900 名受け入れています。

◆JICA 筑波 施設訪問◆

JICA 筑波の施設見学や JICA 筑波に関する講義・講演などを通じて、日本と世界のつながりに気づき、開発途上国に対する理解を深め、国際社会の問題の解決に向けて何らかの形で参加する態度や能力を養う機会を提供することを目的としています。

◆高校生国際協力実体験プログラム◆

講義やワークショップなどを通じて、開発途上国の現状や国際協力の必要性について知り、国際協力に対する理解を深め、自分自身ができる国際協力について考える機会を提供することを目的としています。

◆JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト◆

JICA では毎年 5 月～9 月に全国の中学生・高校生を対象に、開発途上国のおかれた状況や日本との関係についての理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、また、自分たちひとりひとりがどのように行動すべきかについて考える機会を提供することを目的としてエッセイを募集しています。独立行政法人国際協力機構理事長賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞、優秀賞等があり、入選者には賞状および副賞として、約 1 週間の海外研修旅行があります。

◆パンフレット・ビデオなどの提供◆

JICA では国際協力や JICA の活動について紹介した各種パンフレットを準備していますので、ご請求ください。また、ビデオ・パネルの貸し出しも行っています。

◆JICA インターネットホームページ◆

エッセイコンテストや青年海外協力隊員などの各種募集情報、国際理解教育に関する情報、ニュースレターなど、JICA 発信の最新情報が見られるほか、開発途上国に関する情報のデータベースも利用できます。

※JICA ホームページ <https://www.jica.go.jp/>
JICA 筑波ホームページ <https://www.jica.go.jp/tsukuba/index.html>
JICA 筑波 Facebook <https://www.facebook.com/jicatsukuba/>

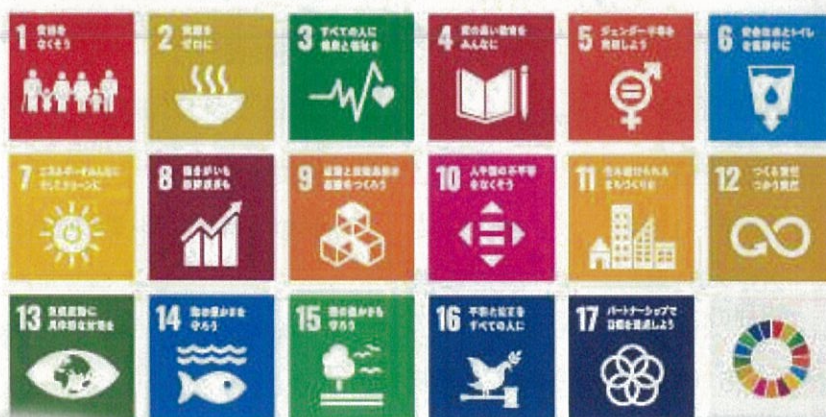
※国際協力に関する各種情報を掲載したメールマガジンの配信（無料）もおこなっています。購読希望の方は、JICA ホームページにアクセスし、登録手続きをおこなってください。



2021年度JICA筑波 教師国内研修 募集要項



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



応募締切：2021年6月14日（月）必着

主催：独立行政法人 国際協力機構 筑波センター（JICA筑波）

後援：茨城県教育委員会（申請中）、茨城県高等学校国際教育研究協議会（申請中）
栃木県教育委員会（申請中）、栃木県私立中学高等学校連合会（申請中）
公益財団法人栃木県国際交流協会（申請中）

【研修のねらい】

本研修は、国際理解教育／開発教育に関心を持つ学校教師及び教育委員会の指導主事等（以下、「教師」という）を対象に、国内（茨城県・栃木県・埼玉県を予定）でSDGsや多文化共生と関連のある地域や企業・団体を訪問することにより、（1）SDGsや多文化共生についての現状や課題について理解を深め、その成果を、学校現場での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらふこと、（2）研修参加後、JICA筑波と協力し、教育現場等で国際理解教育／開発教育やSDGsを推進する中核となつてご活躍いただくことを目的として実施します。

【研修日程】

	日程	場所	内容
事前研修①	7/10（土）	JICA筑波	JICA事業やSDGsに関する講義、本研修の概要説明、過年度参加者との意見交換、ワークショップなど
事前研修②	7/17（土）	JICA筑波	フィールドワークの準備、授業案の検討
第1回フィールドワーク	8/4（水）～ 8/6（金） （2泊3日）	茨城県・栃木県 の訪問先	授業実践を見据えた関連施設・地域への訪問、交流活動、SDGsをテーマにした授業見学、教材作成のための情報収集など
事後研修	8/21（土）	JICA筑波	フィールドワークの振り返り、情報共有、今後の授業案作り
第2回フィールドワーク （希望者のみ）	9/17（金）～ 9/18（土） （1泊2日）	茨城県・埼玉県の 学校	SDGsや多文化共生に関連する授業を実践している学校の訪問、訪問先教員との意見交換など
授業実践	10月～12月	各勤務校	研修で得た情報・教材をもとにした授業実践
報告会（栃木）	2022年1月～ 2月の土曜日	とちぎ国際 交流センター	国内研修報告、授業実践報告、意見交換
報告会（全体）	2/5（土）	JICA筑波	

【応募資格】

次の条件をすべて満たすこと

- ① 茨城県、栃木県内の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年生を担当）、特別支援学校の教員及び教育委員会の指導主事であること。
- ② 年齢が原則満50歳以下（2021年4月1日現在）。
- ③ 所属する学校の校長もしくは教頭（教育委員会であれば所属長）の推薦があること。
- ④ 本研修の趣旨・目的を十分理解し、同研修の実施及び、以後JICAが実施する国際理解教育／開発教育支援事業に継続的に協力可能であること。
- ⑤ 原則として、上記【研修日程】の全行程に参加可能であること。
- ⑥ 本研修の定めた期間内に所属校において授業の実践を行い、当該授業の実践報告書を提出し、JICAのウェブサイトにて一般公開されることに同意すること。
- ⑦ 参加者メーリングリストでの情報共有に賛同いただけること。

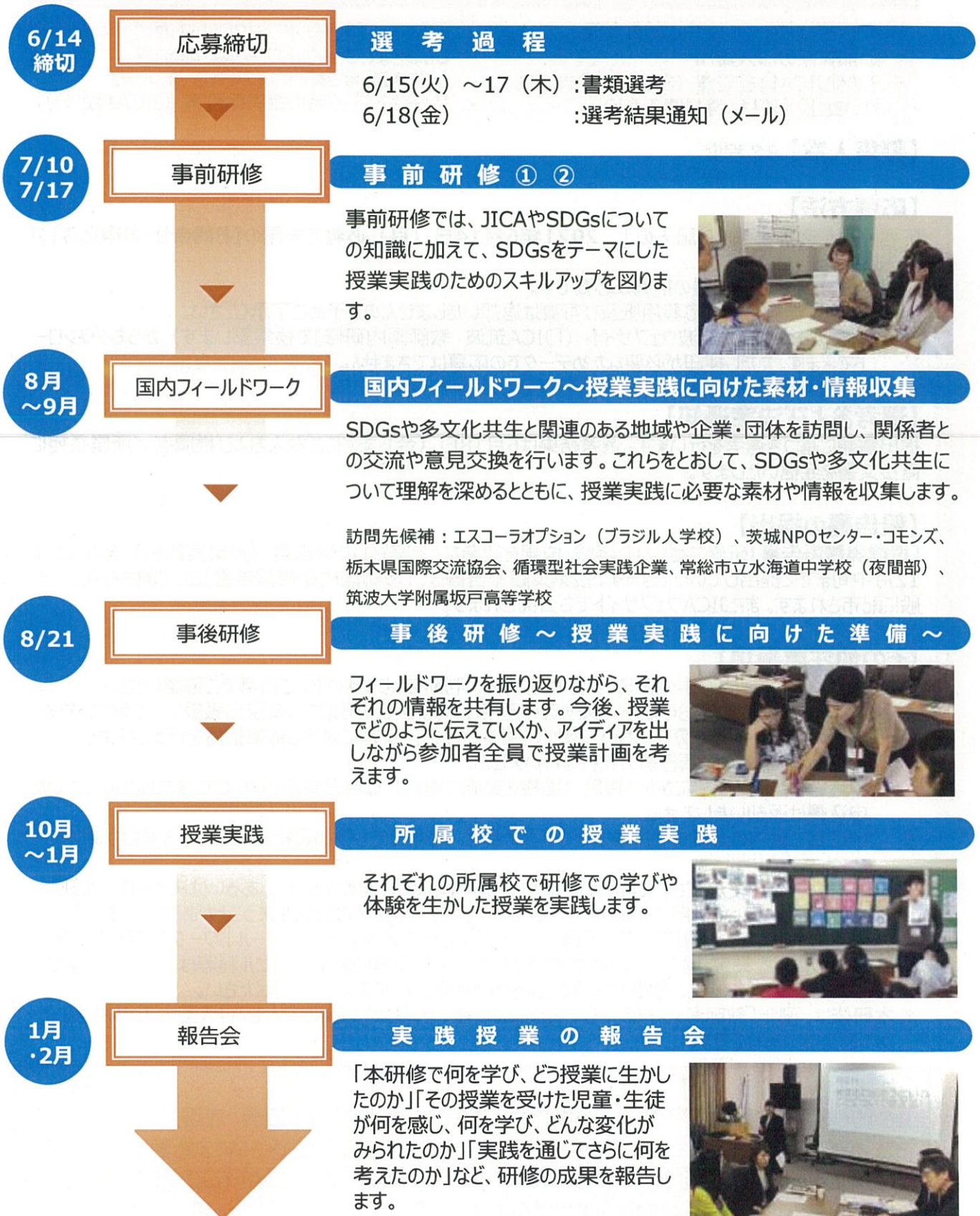
◇ 過去に、教師海外研修、JICAボランティア事業、JICA専門家等及びODAモニター／国際協力レポーター等に参加経験があっても参加可能です。

◇ 本研修に参加後も、来年度以降実施する教師海外研修に応募することが可能です。

◇ 応募者多数の場合は、JICAが実施する国際理解教育／開発教育支援事業の参加経験者を選考の際に優先いたします（応募書類の「JICA主催の事業について」に可能な限りご記入下さい）。

【教師国内研修の流れ】

1年間にわたる研修の流れをご紹介します。



【参加費用】

参加者自己負担経費	JICA負担経費
<ul style="list-style-type: none">・ 研修およびフィールドワーク時の食費・ 追加保険の加入費用・ その他JICA負担経費（右記）に含まれていない支出（教材、資料購入など）	<ul style="list-style-type: none">・ 研修およびフィールドワーク時の交通費・ 研修およびフィールドワーク時の宿泊費 ※交通費、宿泊費等はJICAの規定に基づきます。・ フィールドワーク時の傷害保険費（JICA規定分）

【募集人数】 8名程度

【応募方法】

応募用紙に必要事項をご記入の上、**2021年6月14日（月）必着**で末尾の【お問合せ・お申込み】の宛先まで郵送ください。

※ ご応募の際は所属長の推薦が必要です。

※ お送りいただきました応募用紙及び写真は返却いたしませんので予めご了承ください。

※ 応募用紙はJICA筑波ウェブサイト（「JICA筑波 教師国内研修」で検索願います）からもダウンロードできます。ただし押印が必要なためデータでの応募はできません。

【選考および決定通知】

提出書類に基づき選考を行います。選考結果は6月18日（金）までにご本人および推薦者／所属長宛に直接文書を発信いたします。

【報告書の提出】

「授業実践報告書」研修で得られた経験・成果を授業などで実践した報告書（授業実践例）を2021年12月中旬までに提出していただきます。授業実践報告書は、「教師国内研修報告書」として編さんの上、一般に配布されます。またJICAウェブサイトでも公開されます。

【その他注意事項】

- ① 年休・研修等、研修中のサービスの扱いは所属先の判断によりますので、ご自身でご確認ください。
- ② 本研修では、JICAにおける労災保険等の適用はありません。所属先の業務出張扱いにて参加される場合は、各所属先の責任において参加期間中の公務上災害に対する補償措置を行ってください。
- ③ JICAは出張命令依頼書等の発行を行いません。
- ④ 申込書の送料、面接にかかる費用（面接を実施の場合）は自己負担となります。また提出いただいた申込書は返却いたしません。
- ⑤ 申込書に虚偽の記載内容が含まれている場合は、選考後でも参加資格が取消になる場合があります。

※ 研修の対象者として決定された場合においても、他の参加者に迷惑をかける、あるいは決められた活動に参加する意思がないと判断される方については、研修対象者としての資格を失うことがあります。その場合は、JICAが負担する経費について、返済していただくことがあります。特に、フィールドワーク中に研修対象者としての資格を失った場合、JICAが負担する旅費・滞在費等に係るキャンセル料等は、当該者の全額自己負担となります。また、帰路の旅費も当該者の負担となりますのでご了承ください。

※ 本研修は、例年「教師海外研修」として実施の事業を、新型コロナ感染拡大をふまえ国内現場視察により代替実施するものです。

【お問合せ・お申込み】

JICA筑波 開発教育支援事業運営事務局 教師海外研修担当：日暮、渡邊

〒330-6027 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2 明治安田生命さいたま新都心ビル27階

アイ・シー・ネット株式会社内 TEL：080-9807-7588 FAX：048-600-2501

E-Mail：jicatbic_kaihatsu@icnet.co.jp

2021年度 教師国内研修応募用紙

ふりがな		性別	生年月日	年齢
氏名		<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	19 年 月 日	歳
本人現住所	〒□□□-□□□□ TEL: FAX: E-MAIL:			
緊急連絡先	氏名 (続柄:) 〒□□□-□□□□ TEL: FAX: E-MAIL:			
ふりがな 所属学校名 (正式名称)	職名		科 (学年)	
	担当教科 (学年)			
	部活動 (顧問)			
学校住所	〒□□□-□□□□ TEL: FAX: E-MAIL:			
趣味・特技				
JICA 主催の 事業について	1. JICA 主催事業へ参加したことがありますか? <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない 2. あると答えた方は参加したことのある事業にチェックをしてください。(複数回答可) <input type="checkbox"/> JICA 国際協力出前講座 (日本人講師) (いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> JICA 研修員の学校訪問 (いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> JICA 筑波センター施設訪問 (いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> 国際理解教育実践セミナー (いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> 中学生・高校生エッセイコンテスト (いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> 高校生国際協力実体験プログラム (いつ: 年 月) <input type="checkbox"/> その他 (いつ: 年 月)			
アレルギー・病気等	過去の申込経験		海外渡航の経験	
<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない 詳しくお書きください。	<input type="checkbox"/> ある _____ 年 <input type="checkbox"/> ない		<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない _____ 年 国名 _____ _____ 年 国名 _____ _____ 年 国名 _____	
私は募集要項記載事項をすべて承諾し、この研修の参加を申し込みます。 2021年 月 日 氏名 印			写真 (4×3cm または 4.5×3.5cm) 裏面に氏名を記入	

なお、応募書類において入手いたしました個人情報、選考および派遣事業のみに使用し、その後は直ちに廃棄いたします。但し、ご要望があれば以下の目的には使用いたしますので、ご同意いただける場合には、該当項目にチェックをお願いします。

国際理解教育関連イベント情報の提供

(5) 今回の国内研修の体験を、今後の教育活動にどのように活かしていくか、その計画や方法を具体的に説明してください。なお、現在校務で国際理解教育を担当されていない場合、どのように担当者と連携する予定であるかも、お書きください。

(6) 国内研修に希望すること（内容・訪問先など）や期待する成果についてお書きください。（理由を明記）

どのようにして本研修のことを知りましたか（複数回答可）。

- 職場（1. 上司から勧められた 2. 同僚から勧められた 3. 直接募集要項を受け取った
4. 募集要項が回覧・掲示されていた）
- JICA（1. JICA 筑波から直接 2. JICA ホームページ 3. JICA 国際協力推進員
4. JICA 広報誌： 誌名 _____ ）
- 教育委員会（名称： _____ ）
- 各種研修会（名称： _____ ）
- その他（具体的に： _____ ）

所属する学校長もしくは教頭の推薦の言葉をご記入ください。
（本欄は管理職に参加希望を認知いただいていることの確認のために記入いただいております。）

以上の理由により、上記の者を、独立行政法人国際協力機構主催の教師海外研修に参加することを推薦します。

学校名

職務

氏名



ジャイカ : JICA (Japan International Cooperation Agency) とは

独立行政法人国際協力機構は、開発途上国・地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的として設立された独立行政法人です。主な事業として技術協力（研修員の受け入れ、専門家の派遣、開発調査等）、青年海外協力隊等のボランティア派遣、無償資金協力、有償資金協力、災害緊急援助等を実施しています。

＜JICA 筑波はこんなこともしています＞

～ 国際理解教育・開発教育支援プログラム ～

◆国際理解教育実践セミナー◆

国際理解教育の概念・手法・実践事例・今後の課題とその解決方法などを学ぶ講座を実施しています。教師海外研修に参加される教員の皆様には、本研修への積極的な参加を期待します。

◆JICA 国際協力出前講座（日本人講師）◆

開発途上国のおかれている現状を知り、日本と開発途上国の関わりへの理解を深めることを目的として、JICA 職員や青年海外協力隊の OB・OGなどを派遣します。

◆JICA 研修員の学校訪問◆

開発途上国のおかれている現状を知り、日本と開発途上国の関わりへの理解を深めることを目的として、技術研修のため途上国から来日している JICA 研修員を学校に派遣します。

* JICA 筑波では、アジア・アフリカ・中南米など 100 カ国以上の国々からの研修員を年間約 900 名受け入れています。

◆JICA 筑波 施設訪問◆

JICA 筑波の施設見学や JICA 筑波に関する講義・講演などを通じて、日本と世界のつながりに気づき、開発途上国に対する理解を深め、国際社会の問題の解決に向けて何らかの形で参加する態度や能力を養う機会を提供することを目的としています。

◆高校生国際協力実体験プログラム◆

講義やワークショップなどを通じて、開発途上国の現状や国際協力の必要性について知り、国際協力に対する理解を深め、自分自身ができる国際協力について考える機会を提供することを目的としています。

◆JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト◆

JICA では毎年 5 月～9 月に全国の中学生・高校生を対象に、開発途上国のおかれた状況や日本との関係についての理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、また、自分たちひとりひとりがどのように行動すべきかについて考える機会を提供することを目的としてエッセイを募集しています。独立行政法人国際協力機構理事長賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞、優秀賞等があり、入選者には賞状および副賞として、約 1 週間の海外研修旅行があります。

◆パンフレット・ビデオなどの提供◆

JICA では国際協力や JICA の活動について紹介した各種パンフレットを準備していますので、ご請求ください。また、ビデオ・パネルの貸し出しも行っています。

◆JICA インターネットホームページ◆

エッセイコンテストや青年海外協力隊員などの各種募集情報、国際理解教育に関する情報、ニュースレターなど、JICA 発信の最新情報が見られるほか、開発途上国に関する情報のデータベースも利用できます。

※JICA ホームページ <https://www.jica.go.jp/>
JICA 筑波ホームページ <https://www.jica.go.jp/tsukuba/index.html>
JICA 筑波 Facebook <https://www.facebook.com/jicatsukuba/>
JICA 筑波 Twitter <http://twitter.com/JICATBIC>

※国際協力に関する各種情報を掲載したメールマガジンの配信（無料）もおこなっています。購読希望の方は、JICA ホームページにアクセスし、登録手続きをおこなってください。

独立行政法人 国際協力機構 筑波センター(JICA 筑波) 主催

大学生・大学院生向け国際協力理解講座 2021年度 募集要項



- No.1 国際協力実務講座： 8月23日(月)～8月27日(金) 5日間
 No.2 農業コース(各コース)： 7月下旬～8月下旬のうち 5日間
 (別紙 i: プログラム概要票 参照)

従来、開講してきた農業コースについては、四田の状況(新型コロナウイルス感染拡大等)により、研修員の来日が未確定です。

なお、新型コロナウイルス感染状況により、講座の実施内容等、変更が生じた場合、お知らせさせていただくこともございますので、応募にあたり、右、ご了承ください。

1. はじめに

独立行政法人 国際協力機構(JICA)は、開発途上地域等の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展に資することを目的とする独立行政法人です。

政府開発援助(ODA)の実施機関として、開発途上国に対する技術協力、資金協力など、様々な協力事業を実施しています。JICAは、これらの事業展開を通じて蓄積した情報や人材を活用し、開発途上国や国際協力に対する理解の促進、地域の活性化や国際化の推進、さらには将来的な国際協力の担い手の育成を図るため、開発教育支援事業を展開しています。

2. 本講座の目的

講座受講を通じて、開発途上国の現状と課題や国際協力に関する理解を深め、その必要性について考え、国際協力への参加を動機づける。

- (1) 参加学生は、それぞれが選択したプログラム分野について、途上国にどのようなニーズ、課題があり、開発援助がどう実施されているかを理解し、自分の言葉で説明できるようにする。
- (2) 参加学生は、研修員受入事業というJICA事業の現場の体験、途上国からの技術研修員と交流を通じ、国際協力に係る業務知識・技術を得る。
- (3) 参加学生は、それぞれが選択したプログラム内容で学んだことをもとに、国際協力につながる行動を促進する。

※なお、本講座は体験就業の要素は含まれず、インターンシッププログラムとは異なります。

3. 対象者

JICA、NGO、民間企業（開発コンサルタント、他）、JICA海外協力隊等により実施されている国際協力に、高い関心を持つ大学生および大学院生。

4. プログラム実施場所

独立行政法人 国際協力機構 筑波センター(JICA筑波)
<https://www.jica.go.jp/tsukuba/office/access.html>

5. 応募資格要件

- 途上国の開発援助に将来的に従事したいと考えていること
- 高い目的意識を持って、プログラムに積極的に参加する意思を有すること
- 英語で実施されるプログラム（JICA研修員とともに技術研修を通じた学び）に参加する場合は、プログラム毎で定める英語力を有すること※
- 大学の担当教員の推薦が得られること（本講座を大学の単位として認定する場合のみ）

なお、各プログラムの応募要件については、別紙①プログラム概要票をご参照ください。

※各プログラム概要票に英語力のスコアを記載（選考のための目安として、クリアしていることが望ましい）

6. 提供プログラム（別紙 i: プログラム概要票 参照）

- 国際協力実務講座 1コース：プログラムNo.1（原則、オンライン方式による開設）

JICA職員をはじめ、派遣専門家及び開発コンサルタント等、国際協力の現場で働く方を講師とし、講義やワークショップを通じて、国際協力についての知識を深めるプログラム。

※オンラインでは、ZOOMアプリを使用いたします。

- 農業各4コース：プログラムNo.2～No.5 講座期間は別紙 i: プログラム概要票参照のこと
既存の農業・農村開発分野の課題別研修コース（JICA研修員受入事業）に本講座参加学生がオブザーバー参加し、JICA技術研修員と共に各プログラムを通じ、専門的知識や技術を学びとともに、開発支援事業の実施運営現場を体験できるプログラム。

なお、本講座を受講するにあたっては、各プログラムに関する基本的事項を、以下のホームページを活用し、事前学習に取り組むことをおすすめします。

JICA課題取り組み：<https://www.jica.go.jp/project/subject/>

JICA事業別取り組み：<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/index.html>

7. プログラムの評価

当センターでは、各プログラム受講者の出欠の確認を取りますが、参加学生の成績評価は行いません。回収した受講レポートは大学（指導教官）、もしくはご本人へ返却いたします。本講座の受講に基づく単位の認定等は当方では行いません。別途、単位付与の有無については、各大学にご照会ください。

8. その他

- (1) 各プログラムには担当のスタッフがおり、参加期間中の必要なサポートを致しますので、必要に応じてご相談ください。
- (2) 受講に必要なテキスト・レジュメは原則、無料で配布します。但し、交通費、宿泊費、実習に必要な資材費などは個人負担となります。また、事前学習の指示のあるプログラムについては、その指示に必ず従ってください。
- (3) 受講者は参加プログラムの最終日もしくは終了5日以内に受講レポートを提出して頂きます。来場途中及び受講中の負傷、事故等が発生した場合には、JICA筑波では責任を負いかねます。また、受講生の故意または過失によってJICA筑波又は第三者に損害を与えた場合、JICA筑波または第三者に対してその損害を賠償していただくことがありますので、各自で傷害保険及び損害賠償保険（学生教育研究災害傷害保険等）に加入することをお勧めします。以下、2項目は、当センターでの対面方式実施の場合のみ。
- (4) 食事はJICA筑波内の食堂の利用ができます。
- (5) 関東圏外から参加を希望する学生等、宿泊を希望する場合は、原則、JICA技術研修員が宿泊する同施設を利用することが可能です（5,300円程度/泊）。但し、宿泊の可否については空室状況によるため、後日通知します。

II. 応募方法 他

1. 応募方法

応募者は必要書類を熟読した上で、申込用webサイトに**6月14日（月）まで**に必要な情報を入力願います。webサイトでの登録が完了すると、お知らせメールがお手元に届きます。

申込用webサイト：<https://icnet.smartseminar.jp/public/seminar/view/232>

本講座申込や受講に関して監督する大学教官がいる場合は、必ず大学教官の名前、連絡先も、入力ください。大学教官による応募前の事前内容チェック等が必要な場合は、各自申込前に済ませていただけるようお願いいたします。（下書き用フォーマットが、別途ございます。）

2. 応募者の選考と結果通知

提出された書類に基づき、JICA筑波にて応募者の選考を行います。選考結果については、**6月25日（金）頃**に通知いたします。なお、選考結果の通知は、大学の窓口担当者と本人宛に、メールでお知らせいたします。

受講決定の連絡を受けた方は、**7月12日（月）**までに誓約書（別紙③）と肖像権使用承諾書（別紙④）を以下の送付先に郵送していただけます。なお、やむを得ない事情を除き受講決定後にキャンセルをしないようご留意願います。

3. 連絡方法

【受講申込書送付先・問合せ】

JICA 筑波 開発教育支援事業運営事務局

大学生国際協力理解講座担当：森田、鹿ノ戸

〒330-6027

埼玉県さいたま市中央区新都心 11-2 明治安田生命さいたま新都心ビル 27 階

アイ・シー・ネット(株)内

TEL：048-600-2514

FAX：048-600-2501

E-Mail：jicatbic_kaihatsu@icnet.co.jp

プログラムNo. 1：国際協力実務講座（初級編） プログラム概要

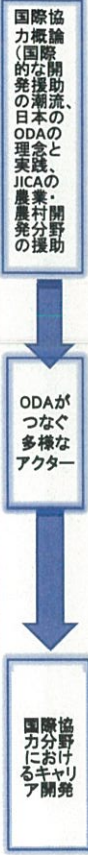
1. 基本情報 *講師や講師の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承ください。

1) プログラム名:	大学生・大学院生向け国際協力実務講座（初級編）
2) 担当者名:	浅野 晋
3) 期間（日数）:	2021年8月23日（月）～8月27日（金） 5日間 ※下記スケジュールは昨年実施内容（一部、変更可能性あり）
4) 参加者:	25名
5) 言語:	日本語
6) 主な対象学生:	国際協力について関心があり、将来、開発途上国の援助に従事したいと希望する学部生向け（学部3年以上が望ましい。但し、大学院生も受入れ可） 専門分野は特に問わないが、英語でディスカッション出来るものが好ましい。

2. コンテンツ

本プログラムの目的 国際協力実務経験者からの講義、ディスカッション、ワークショップ等を通じて、開発途上国の開発課題、援助アプローチに関する理解を深める。

日程表		時間	場所	テーマ	講師	ねらい	概要				
1	8月23日	月	9:30-10:00	管理棟 3階 講義室1	受付						
			10:00-10:25		プログラムオリエンテーション	司会	プログラムの概要、日程上の留意事項等を理解する。	・プログラムの目的・日程・留意事項等の確認 ・スタッフ・参加者の自己紹介など			
			10:30-10:45		主催者挨拶（10分程度）	JICA筑波 所長					
			11:00-11:20		講座開始にあたり	アイシーネット（株）	研修の初日最初の接続時に、基礎的な使い方の説明、事前質疑（通信機器に限り）				
			11:30-12:30		ODA・JICA事業概要説明	JICA筑波 連携推進課	日本のODAの歴史、取組理念について理解を深めること で、JICAで実施している事業全般（情報）について、知識を 得、概要を理解する。	・ODAやJICAの組織、事業（主に技術協力）に関する講義 ・研修員受入事業概要に関する講義 ・JICA筑波研修員受入事業に関する講義 ・質疑応答			
					休憩（昼食）						
			13:45-14:45		援助事業を担う各種アクターについて（仮）	JICA筑波 連携推進課	国際協力・開発援助の事業実施にかかる各アクターとの連携、仕組みを理解する。	・国際的な取組に関して ・JICA職員の主要業務（事業計画立案）について ・質疑応答			
			15:00-15:45		施設見学 （事業概要紹介）	JICA筑波 連携推進課	JICA筑波センターの研修員受入事業の概観をしながら、研修施設見学を通じ実践型農業研修について知る。	・実験棟・実習棟、研修員作成農機具の展示室、管理棟、図書情報室			
			16:00-17:00		初日を振り返って						
			2		8月24日	火	9:45-10:00	管理棟 3階 講義室1	前日の振り返り（15分程度）	JICA筑波 連携推進課	前日インプットの振り返り
10:00-11:15	NGOとの連携生活改善アプローチによる草の根事業	NPO法人IFPaT		JICAと連携した草の根技術協力の実施（生活改善アプローチの概観ほか）者であるNPO法人の取組みを学ぶ。			・草の根事業概要 ・質疑応答				
11:25-12:45	民間企業の海外展開支援（事業制度ならびに連携事例紹介）	完投中 JICA筑波 連携推進課		昨今、途上国の課題解決にODA資金のみならず、経済成長と持続的な社会発展にむけ民間企業や民間資金（投資）の重要性は増しており、JICAの民間セクターとの連携につき理解を深める。			・民間連携を通じた地方創生 ・民間連携事業の概要及び事例紹介 ・中小企業海外展開支援事業の概要				
	休憩（昼食）										
14:00-15:00	SDGs概要（仮） ※テーマ差し替えの可能性あり	JICA筑波 連携推進課		SDGs持続可能な開発目標の概要を知る。			・SDGsとは？ ・SDGsを取り巻く国内外の動き				
15:20-17:15	開発課題（SDGs）ワーク① ※テーマ差し替えの可能性あり	JICA筑波 連携推進課		グループワークを通じ、開発課題（SDGs）の選定ならびに課題解決のための取組み案について、検討する。			【★要注意】事前課題あり				
3	8月25日	水	13:00	管理棟 3階 講義室1	前日の振り返り（15分程度）	JICA筑波 連携推進課	前日インプットの振り返り				
			PM		参加型ワークショップ実施に向けた講義 職員等とのキャリア懇話（希望）	アイシーネット（株）	PCM（プロジェクトサイクルマネジメント）とは				
4	8月26日	木	9:45-17:30	管理棟 3階 講義室1	参加型ワークショップ③ PCM演習	アイシーネット（株）	◎国々△△地域の現状を題材として、具体的な投入や活動内容を具体的に検討することを通じ、事業運営管理の仕組み、課題や問題点とその解決策を模索する。				
			9:45-10:00		前日の振り返り	JICA筑波 連携推進課					
5	8月27日	金	10:00-11:00	管理棟 3階 講義室1	JICAボランティア事業	JOCV帰国隊員	JICAボランティア事業の概要（歩み、目的、制度・趣旨、実績等）を理解し、帰国隊員による体験談を通じてボランティア活動の意義を学ぶ。	・JICAボランティア事業の説明 ・体験談の発表 ・質疑応答			
			11:10-12:25		国際協力の仕事について	JICA本部 開発協力人材室	国際協力事業に関わる様々なアクターが種々、各アクターの概要、国際協力の関わりがどんなものなのか、JICAパートナー担当者からの話を聞き、国際協力分野への仕事に対する理解を深める。	・将来的に国際協力分野の仕事に就くことを視野に入れ、各アクターの概要・必要なスキル・キャリアパスなどを相談 ・質疑応答			
					昼食						
			12:30-13:30		最終まとめ	受講生間（アイシーネット（株））	講座等全体の振り返りとして参加者の意向、適正を分析を行う。	・受講生個々の自己分析とキャリアビジョン			
			13:45-15:45		JICA筑波による講評ほか（実施可否不明）	JICA筑波 所長ほか					



3. 留意事項
 ・国際協力に関する基礎的な知識を得ると共に、国際協力の実務について学べる内容となっています。
 ・ディスカッション、ワークショップなど参加型のセッションでは、積極的に参加する姿勢を求めます。
 ・原則、全日出席が必要となります。ネットアクセス可能な範囲で参加。

4. 学生さんへ一言
 将来、国際協力に関わりたい、仕事をしたい等、積極的な学生の参加を歓迎します。
 授業で学ぶ国際協力以外にも現場レベルでの国際協力の取り組みについて学びたいと考える人にお勧めです。

5. その他
 ・学生インターンが一部プログラムに参加する可能性有。

2021年度；JICA筑波 大学生・大学院生向け国際協力理解講座
 プログラムNo 2：小規模農家の生計向上のための野菜生産技術コース プログラム概要票

別紙①-2

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名：	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術
2) 担当者名：	永井 新生（研修コース委託先業務総括：新出氏）
3) 期間（日数）：	2021年7月26日（月）～2021年7月30日（金）
4) 定員：	最大受入人数4人
5) 言語：	英語（実施内容を英語実施のため理解できること）※目安（TOEIC600点、TOEFL510点「CBT180点/iBT64点」、IELTS5.0程度）
6) 主な対象学生：	野菜栽培分野に興味・関心のある生物学系、農学系、開発学（但し、農業に係るフィールドを基礎）関係の3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国：	カンボジア、サモア、ネパール、バプアニューギニア、東チモール、ラオス（予定）

2. コンテンツ

本プログラムの目的	講義及び実習を通じて、主要な野菜の栽培技術等の基本を理解する。
-----------	---------------------------------

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要（狙い）
1	2021/7/26	月	09:15-09:25	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:00	練り床作製	実習	現地調達可能で初期生育に効果的な育苗資材としての練り床の作製方法を学ぶ
			13:30-16:00	採種実習（ニンジン・タマネギ 1/2）	実習	地域で生き残った環境耐性も高く作りやすい固定種の品目の例としてニンジン・タマネギを教材に採種・精選技術を学び自国での活用を促す。当日は脱穀を実施。
2	2021/7/27	火	09:30-12:00	採種実習（トマト F1および固定種） 1/2	実習	果菜類の採種技術をトマトを例に学ぶ。果実からの種子の抽出をよくするための処置、発酵の過程を学ぶ
			13:30-16:00	グループ栽培実習/実験の為の圃場管理	実習	栽培管理技術習得の為の圃場管理実習を研修員と共に進行
3	2021/7/28	水	09:30-12:00	日本の技術普及システム 1/2	講義	日本の野菜栽培技術の普及システムとその実際（英語での講義）
			13:30-16:00	日本の技術普及システム 2/2	講義	日本の野菜栽培技術の普及システムとその実際（英語での講義）
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り（受講者から所感、質疑含め）。
4	2021/7/29	木	09:30-12:00	病原菌の検鏡	実習	顕微鏡を用いて、病害の同定ための検体の作成方法、観察の手法、同定のポイントを学ぶ。
			13:30-16:00	採種実習（トマト F1および固定種） 2/2	実習	果菜類の採種技術をトマトを例に学ぶ。当日は精製/貯蔵法を学ぶ。
5	2021/7/30	金	09:30-12:00	ちびっ子博士	実習	JICA筑波が実施する「ちびっ子博士」イベントの一環で子どもたちがスイカの食味や糖度を調べる「スイカ博士になろう」を実施する。実施の準備・補佐を行う
			13:30-16:00	採種実習（ニンジン・タマネギ 2/2）	実習	地域で生き残った環境耐性も高く作りやすい固定種の品目の例としてニンジン・タマネギを教材に採種・精選技術を学び自国での活用を促す。当日は精製/貯蔵法を学ぶ
			16:00-16:30	報告発表		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> ・特に朝の開始は時間厳守とします。 ・日程については、今後の研修日程の都合・天候対応などで変更の可能性があります。 ・圃場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴（作業着及び長靴等）を準備してください。また、講義の日でも作業が出来る服装をお願いします。 ・日没まで作業をしていただくこともあります。
--

4. 学生さんへ一言

一日の実習・講義終了後には、研修員と一緒に圃場をまわってください。研修員が取り組んでいる実習について説明してくれますので、意見交換など交流を図っていただければと思います。

5. その他

講座最終日（予定）には、各受講生には、プログラム中の学びについて研修員等に対し、プレゼンテーション（英語）をしていただきます。

1. 基本情報

*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名：	アフリカ地域市場志向型農業振興(普及員)
2) 担当者名：	根本 拓哉 (研修コース委託先業務総括：中田氏)
3) 期間(日数)：	7月14日(水)～15日(木)、7月27日(火)～28日(水)の4日間、および8月24日(火)、9月7日(火)または9月14日(火)の3日のうち、いずれか1日間
4) 定員：	受入人数 3～4人
5) 言語：	英語(実施内容を英語で理解できること) ※目安(TOEIC650点程度)
6) 主な対象学生：	農学系または、開発学関係学部(但し、生物資源生産等に係るフィールドを基礎)に在籍で、園芸作物栽培分野に興味・関心のある学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国(今後選考予定)	エチオピア、ガーナ、レソト、マラウイ、ナイジェリア、スーダン、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ、タンザニア(予定)

2. コンテンツ

本プログラムの目的	園芸作物栽培技術に係わる実験実習を研修員と共に体験し、研修員との交流を通じてアフリカに対する理解を深める。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要
1	2021/7/14	水	09:15-09:30	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	鮮度保持試験(処理区の設定)	実習	温度、湿度など収穫後の貯蔵条件がトマト果実の鮮度保持に与える影響を学ぶ
			13:30-16:00	土壌消毒試験：処理法比較試験(まとめ)	実習	土壌伝染性病害の防除に効果的な処理方法を検討する
2	2021/7/15	水	09:30-12:15	トマト栽培管理	実習	園場で実施しているトマト栽培試験の管理を行う
			13:30-16:00	カボチャ出荷実習	実習	収穫したカボチャの市場出荷に向けて、選果、箱詰めなどを行う
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り(受講者から所感、質疑含め)。
3	2021/7/27	火	09:30-12:15	鮮度保持試験まとめ	実習	温度、湿度など収穫後の貯蔵条件がトマト果実の鮮度保持に与える影響を学ぶ
			13:30-16:00	メロン品種比較試験(収穫調査)	実習	温度、湿度など収穫後の貯蔵条件がトマト果実の鮮度保持に与える影響を学ぶ
4	2021/7/28	水	09:30-12:15	メロン品種比較試験(果実調査)	実習	品種特性を理解するため、果実の形態について測定する
			13:30-16:00	メロン品種比較試験(食味試験)	実習	品種特性を理解するため、消費者の視点で果実食味を評価する
			16:00-16:30	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。
5	8月24日、9月27日または9月14日のいずれか	※	同上	実験結果報告会等	報告会	研修成果の発表会(8/24(火)共通実験報告会、9/7(火)個別課題報告会、または9/14(火)インテリムレポート検討会)

3. 留意事項

- ・上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。
- ・園場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴(作業着及び長靴等)を準備してください。
- ・開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。

4. 学生さんへ一言

- ・アフリカ地域の研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムにしたいと思います。
- ・コミュニケーション手段は英語です。臆せず積極的にご参加ください。
- ・各研修員が取り組んでいる個別実験について、興味ある分野・国があれば、積極的に聞き取りを行うなど交流を図って下さい。

5. その他

上記4日間の他に、8月24日(火)に開催する「共通実験に係わるポスター発表会」、9月7日(火)の「個別課題レポート発表会」、または9月14日(火)の「インテリムレポート検討会」のいずれか1日に参加できることが望ましい。

2021年度：JICA筑波 大学生・大学院生向け国際協力理解講座
 プログラムNo. 4：稲作技術向上（普及員） プログラム概要票

別紙①-4

1. 基本情報	*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。
1) 研修コース名：	稲作技術向上（普及員）コース
2) 担当者名：	川越 結（研修コース委託先業務総括：苗代氏）
3) 期間（日数）：	8月30日（月）～ 9月3日（金）5日間
4) 定員：	受入人数 3人程度
5) 言語：	英語（実施内容を英語実施のため理解できること）※目安（TOEIC600点程度）
6) 主な対象学生：	生物学系、農学系、開発学（但し、農業に係るフィールドを基礎）関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国：	フィリピン、ミャンマー、アフガニスタン、スーダン、エチオピア、リベリア、マラウイ、ウガンダ、ザンビア、ベナン、カメルーン、シエラレオネ（予定）

2. コンテンツ

本プログラムの目的	実験・実習を通して稲作技術（特に収量調査）を理解する。
-----------	-----------------------------

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	概要
1	2021/8/30	月	09:15-09:30	プログラムオリエンテーション	関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	新潟研修旅行振り返り	
			13:30-16:00	グループ実験（収穫）	
2	2021/8/31	火	09:30-12:15	グループ実験（収穫・収量調査）	・共通実験・実習では、坪刈り、五稈練法による収量調査を行い、その後バインダーやコンバインによる収穫作業を実習する。
			13:30-16:00	共通実験・実習（収穫・収量調査）	
3	2021/9/1	水	09:30-12:15	共通実験・実習（収穫機械実習）	
			13:30-16:00	共通実験・実習（収穫機械実習）	
			16:15-16:45	中間レビュー	
4	2021/9/2	木	09:30-12:15	グループ実験（収穫・収量調査）	・課題別実験-収量調査では、実験グループ別に、区画ごとにサンプル株を刈取り収量および収量構成要素の比較検討し、稲の特性を理解する
			13:30-16:00	グループ実験（収穫・収量調査）	
5	2021/9/3	金	09:30-12:15	グループ実験（収穫・収量調査）	
			13:30-16:00	グループ実験（収穫・収量調査）	
			16:00-16:30	プログラム振り返り	プログラムでの学び等を発表

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> ・上記日程表は現時点での案であり、稲の生育状況、天候等の都合により変更の可能性があります。 ・JICA筑波の圃場における作業を行いますので、作業着、雨除けのレインコート等を持参してください。 ・長靴は、24.0、26.5、27.0、28.0、29.0cm貸出可能です。このサイズ以外の場合は持参ください。 ・開始時間には時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。
--

4. 学生さんへ一言

国内での国際協力現場を体験できます。研修実施関係者や研修員と積極的に関わることで、稲作技術以外にも、多くのことを学べる実りあるプログラムとなります。英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
--

5. その他

<ul style="list-style-type: none"> ・一定の自然科学的知識を有している学生を対象として想定しているため、文科系の方には分かりにくい部分があることをあらかじめ了承の上ご参加下さい。

1. 基本情報

*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名：	天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術コース
2) 担当者名：	本村 美紀（研修コース委託先業務総括：浦山氏）
3) 期間（日数）：	8月30日（月）～9月3日（金）5日間
4) 定員：	受入人数3人程度
5) 言語：	英語（実施内容を英語で理解できること）（※目安 TOEIC600点程度）
6) 主な対象学生：	生物学系、農学系、開発学（但し、農業に係るフィールドを基礎）関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国（予定）：	アフガニスタン、カメルーン、エチオピア、リベリア、マラウイ、ミャンマー、シエラレオネ、南スーダン、タンザニア、ウガンダ、ザンビア（予定）

2. コンテンツ

本プログラムの目的	ネリカ米（NERICA）を含む天水稲（陸稲）の栽培、種子生産、品種選定について学び、コメ生産を通じてアジア・アフリカ地域の貧困問題、食糧の安定供給について考えます。
-----------	--

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形式	概要
1	2021/8/30	月	09:15-09:30	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、贈呈等
			09:30-12:15	稲の収量と収量構成要素1	講義	稲の収量とそれに関与する要素について
			13:30-16:00	収量調査の実際	講義	収量調査のポイントについて
2	2021/8/31	火	09:30-12:15	稲の収量と収量構成要素2	講義	稲の収量とそれに関与する要素について
			13:30-16:00	個別・グループ実験：収量調査	実習	収量調査
3	2021/9/1	水	09:30-12:15	個別・グループ実験：原種種子の異品種抜き取り	実習	同上
			13:30-16:00	個別・グループ実験：収量調査	実習	同上
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り（受講者から所感、質疑含め）。
4	2021/9/2	木	09:30-12:15	アフリカの稲作	講義	アフリカを中心とした稲作の現況
			13:30-16:00	個別・グループ実験：収量調査	実習	収量調査
5	2021/9/3	金	09:30-12:15	個別・グループ実験：収量調査	実習	実習：収量調査
			13:30-16:00	作物改良の可能性	講義	作物の改良の可能性について
			16:00-16:30	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。

3. 留意事項

- ・上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。
- ・畑地（ネリカ米）での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴（作業着及び長靴or地下足袋等が望ましい）を準備してください。
- ・開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。

4. 学生さんへ一言

- ・諸国を代表する研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく爽やかなプログラムであると同時に、途上国の技術者等への指導業務について、知っていただく機会にしたいと思います。
- ・英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
- ・自然科学系の内容ですが、食糧生産に関心の高い社会学系の方の応募も受け付けます。

5. その他

- ・参加者には、事前に研修員が作成したインセプションレポートを配布し目を通して頂きます。各国の現状（気候条件や畑作物の作付状況等）や研修員が抱える課題を理解し、関心をもった内容について、講座中はぜひ研修員と積極的に意見交換をしてみてください。全ての国ではなく、1~2か国に絞って準備頂いても構いません。
- ・実験・実習は主に畑地ですが、小さな水田での収穫作業もあります。

高校生国際協力実体験プログラム 2021

～SDGs でつながる世界と私たち～

このプログラムでは…

- 世界を知り、日本を知り、世界と日本のつながりについて考えることができます
- 国内外で地球市民として行動を起こしている人に出会うことができます
- 地球市民として考え、行動を起こすスキルが磨かれます
- 国際協力に関心がある同世代の仲間たちと語り合えます

会場：

JICA 筑波

(茨城県つくば市高野台 3-6)

日時：

2021年

12月11日(土)

9:30～16:00 (予定)



対象： 茨城県の高中生

費用： 昼食代約 600 円、会場までの交通費

形式： 会場にて対面式で実施



※新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を施しながら、会場にて対面式で実施する予定です。しかし、新型コロナウイルスの状況によっては、実施形式を変更する可能性があることをご承知おきください。

※写真は過去のプログラムの様子です。コロナ禍以前のものも含まれます。

募集要項

目的

- 開発途上国のおかれている現状や日本の国際協力について理解を深める。
- 本プログラムを通して、開発教育／国際理解教育の3つのステージ「知る」「考える」「行動する」を体験し、以下の目標に到達することを旨とする。
 - (1) 開発途上国の現状や国際協力の必要性を知る。
 - (2) 国際協力に対する理解を深める。
 - (3) 国際協力への関わり方について参加者が主体的に考え、自分にできることを見出し、どう行動につなげるかを考える。
 - (4) 地域における身近な課題を通じて相互依存の中での地域の国際化対応、増加しつつある外国人との多文化共生、地方創生に向けた地域における個人の行動について考える。

日程

2021年12月11日(土) 9:30~16:00(予定)

- ※**必須**：選考後に送付する事前課題への取り組み
：JICA 筑波での成果（ポスター）展示（予定）
- ※**推奨**：JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2022への応募

実施場所・会場

国際協力機構（JICA）筑波センター（〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6）

募集対象・人数

- 茨城県の高校生40名程度（原則として1校につき教員引率1名、生徒2~4名）
- ※引率教員の方にはワークショップへの参加や、高校生の活動発表に対する講評等をお願いする予定です。
- ※個人で応募を希望する方はご相談ください。

参加要件

- (1) 成人引率者1名（教員が望ましい）同行できる方
- (2) 参加に関して保護者の同意が得られる方

自己負担費用

昼食代 約600円、会場までの交通費 ※昼食は食堂でそれぞれ購入していただきます（実費）

その他

- (1) 実施期間中（自宅~JICA 筑波往復含む）の負傷、事故については当センターでは責任を負いかねますので、不測の事態への対処として保険加入などはご自身でお願いいたします。
- (2) プログラムで撮影した写真・映像はJICA事業の紹介やプログラム広報のためにホームページ・SNSや冊子で公開されることがあります。ご了承のうえ、お申し込み下さい。

申込方法 および申込締切

申込書に必要事項を記入の上、**2021年11月22日(月) 17:00 必着**で以下までEmailまたはFAXでお送り下さい。（担当/引率教員がまとめてお申込みください）※申込順に応募を受け付け、定員に達した時点で締め切ります。※申込書はJICA 筑波HPからダウンロードできます。

参加決定通知

2021年11月26日(金)（発送予定） ※決定通知と合わせて事前課題をお送りします

お申込み/お問合せ先

JICA 筑波 開発教育支援事業運営事務局 担当：渡邊・日暮

〒330-6027 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

明治安田生命さいたま新都心ビル27階 アイ・シー・ネット(株)内

TEL：080-9173-9935 FAX：048-600-2501

E-Mail：jicatbic_kaihatsu@icnet.co.jp

プログラム（予定）

プログラム概要

今年の高校生国際協力実体験プログラムのゴールは、SDGsの達成に貢献するために「自分は何ができるか」を考え、発表することです。ワークショップを通してSDGsへの理解を深め、実際に行動を起こしているロールモデルの方々からヒントを得て、自分たちにできるSDGs達成のための行動計画を描きます。

9:00	受付開始
9:30	開会挨拶・プログラム説明・スタッフ紹介
9:45	「SDGsワークショップ」 「SDGs（持続可能な開発目標）」をレゴブロックやカードゲームを通して楽しく体感することで、SDGsという「世界ゴト」を「自分ゴト」に近づけます。 講師：井澤 友郭さん（こども国連環境推進協会 事務局長）
12:30	昼食・施設見学（民族衣装体験）
13:30	SDGsとJICA SDGs（持続可能な開発目標）とは何かを一緒に考えた上で、SDGs達成に向けてJICAはどのような役割を担っており、これまで、そして今現在、どのような働きを世界でしているかを紹介します。
13:50	「行動している人の話を聞いてみよう！」 大学生や青年海外協力隊など、実際にアクションを起こしている方に登壇いただきます。どのような想いで、どのようなアクションを起こしているかのお話を聞きます。高校生である今と卒業後の、自分の活動のヒントになるかもしれません。
14:30	SDGs達成のための行動計画 ～今、私たちができること～ 未来の私たちの世界をよりよくするために、私たちが実践できるSDGs達成のためのアプローチを考えてみよう！
15:30	グループ発表
15:50	アンケート記入・閉会挨拶
16:00	終了

※プログラム内容は変更になることもあります。ご了承ください。

※適宜休憩を行います。

※プログラム終了後に学校ごとにポスターを作成し、成果を展示で発表することを予定しています。



高校生国際協力実体験プログラム 2021 申込書

※印記入必須 チェックをいれて下さい ⇒ 募集要項の内容を承諾のうえ、参加を申し込みます

※引率教員の方にはワークショップへの参加や、高校生の活動発表への講評等をお願いする予定です。

※ご記入いただいた個人情報はプログラム運営に必要な範囲においてのみ使用いたします。また、情報の取り扱いは主催者及び事務局のみとし、第三者には一切提供いたしません。

ふりがな			
※学 校 名			
※連 絡 先		〒	
		TEL	FAX
※ 担 当 教 員	※ふりがな	※緊急連絡 (携帯電話など)	
	※氏 名		
	※Eメール		
※引率者	<input type="checkbox"/> 担当教員と同じ <input type="checkbox"/> 担当以外(氏名: _____ / 連絡先: _____)		
交通手段	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 <input type="checkbox"/> 送迎 <input type="checkbox"/> 自転車・徒歩 <input type="checkbox"/> その他(_____)		

◆参加生徒名◆

①	※ふりがな		※学年	年	※性別	男・女
	※氏名					
②	※ふりがな		※学年	年	※性別	男・女
	※氏名					
③	※ふりがな		※学年	年	※性別	男・女
	※氏名					
④	※ふりがな		※学年	年	※性別	男・女
	※氏名					

お申込み/お問合せ先

E-Mail: jicatbic_kaihatsu@icnet.co.jp

FAX : 048-600-2501 / TEL:080-9173-9935

JICA 筑波 開発教育支援事業運営事務局 担当：渡邊・日暮

申込締切：2021年11月22日(月) 17:00 必着

※申込順に応募を受け付け、定員に達した時点で締め切りますので、お早めにお申し込みください。

高校生国際協力実体験プログラム 2021

～SDGs でつながる世界と私たち～

このプログラムでは…

- 世界を知り、日本を知り、世界と日本のつながりについて考えることができます
- 国内外で地球市民として行動を起こしている人に出会うことができます
- 地球市民として考え、行動を起こすスキルが磨かれます
- 国際協力に関心がある同世代の仲間たちと語り合えます

会場：

とちぎ国際交流センター

(栃木県宇都宮市本町 9-14)

日時：

2021年

12月4日(土)

9:30～16:00 (予定)

対象： 栃木県の高中生

費用： 昼食代 1,100 円、会場までの交通費

形式： 会場にて対面式で実施



※新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を施しながら、会場にて対面式で実施する予定です。しかし、新型コロナウイルスの状況によっては、実施形式を変更する可能性があることをご承知おきください。
※写真は過去のプログラムの様子です。コロナ禍以前のものも含まれます。

募集要項

目的

- 開発途上国のおかれている現状や日本の国際協力について理解を深める。
- 本プログラムを通して、開発教育／国際理解教育の3つのステージ「知る」「考える」「行動する」を体験し、以下の目標に到達することを目指す。
 - (1) 開発途上国の現状や国際協力の必要性を知る。
 - (2) 国際協力に対する理解を深める。
 - (3) 国際協力への関わり方について参加者が主体的に考え、自分にできることを見出し、どう行動につなげるかを考える。
 - (4) 地域における身近な課題を通じて相互依存の中での地域の国際化対応、増加しつつある外国人との多文化共生、地方創生に向けた地域における個人の行動について考える。

日程

2021年12月4日(土) 9:30~16:00(予定)

- ※**必須**：選考後に送付する事前課題への取り組み
：とちぎ国際交流センターでの成果(ポスター)展示(予定)
- ※**推奨**：JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2022への応募

実施場所・会場

とちぎ国際交流センター(〒320-0033 栃木県宇都宮市本町9-14)

募集対象・人数

- 栃木県の高校生40名程度(原則として1校につき教員引率1名、生徒2~4名)
※引率教員の方にはワークショップへの参加や、高校生の活動発表に対する講評等をお願いする予定です。
※個人で応募を希望する方はご相談ください。

参加要件

- (1) 成人引率者1名(教員が望ましい)同行できる方
- (2) 参加に関して保護者の同意が得られる方

自己負担費用

昼食代 1,100円、会場までの交通費

その他

- (1) 実施期間中(自宅~会場往復含む)の負傷、事故については当センターでは責任を負いかねますので、不測の事態への対処として保険加入などはご自身でお願いいたします。
- (2) プログラムで撮影した写真・映像はJICA事業の紹介やプログラム広報のためにホームページ・SNSや冊子で公開されることがあります。ご了承のうえ、お申し込み下さい。

申込方法 および申込締切

申込書に必要事項を記入の上、**2021年11月15日(月) 17:00 必着**で以下までEmailまたはFAXでお送り下さい。(担当/引率教員がまとめてお申込みください) ※申込順に応募を受け付け、定員に達した時点で締め切ります。※申込書はJICA 筑波HPからダウンロードできます。

参加決定通知

2021年11月19日(金)(発送予定) ※決定通知と合わせて事前課題をお送りします

お申込み/お問合せ先

JICA 筑波 開発教育支援事業運営事務局 担当： 渡邊・日暮

〒330-6027 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

明治安田生命さいたま新都心ビル27階 アイ・シー・ネット(株)内

TEL: 080-9173-9935 FAX: 048-600-2501

E-Mail: jicatbic_kaihatsu@icnet.co.jp

プログラム（予定）

プログラム概要

今年の高校生国際協力実体験プログラムのゴールは、SDGsの達成に貢献するために「自分は何ができるか」を考え、発表することです。ワークショップを通してSDGsへの理解を深め、実際に行動を起こしているロールモデルの方々からヒントを得て、自分たちにできるSDGs達成のための行動計画を描きます。

9:00	受付開始
9:30	開会挨拶・プログラム説明・スタッフ紹介
9:45	「SDGsワークショップ」 「SDGs（持続可能な開発目標）」をレゴブロックやカードゲームを通して楽しく体感することで、SDGsという「世界ゴト」を「自分ゴト」に近づけます。 講師：井澤 友郭さん（こども国連環境推進協会 事務局長）
12:30	昼食・施設見学（民族衣装体験）
13:30	SDGsとJICA SDGs（持続可能な開発目標）とは何かを一緒に考えた上で、SDGs達成に向けてJICAはどのような役割を担っており、これまで、そして今現在、どのような働きを世界でしているかを紹介します。
13:50	「行動している人の話を聞いてみよう！」 大学生や青年海外協力隊など、実際にアクションを起こしている方に登壇いただきます。どのような想いで、どのようなアクションを起こしているかのお話を聞きます。高校生である今と卒業後の、自分の活動のヒントになるかもしれません。
14:30	SDGs達成のための行動計画 ～今、私たちができること～ 未来の私たちの世界をよりよくするために、私たちが実践できるSDGs達成のためのアプローチを考えてみよう！
15:30	グループ発表
15:50	アンケート記入・閉会挨拶
16:00	終了

※プログラム内容は変更になることもあります。ご了承ください。

※適宜休憩を行います。

※プログラム終了後に学校ごとにポスターを作成し、成果を展示で発表することを予定しています。



高校生国際協力実体験プログラム2021 申込書

※印記入必須 チェックをいれて下さい ⇒ 募集要項の内容を承諾のうえ、参加を申し込みます

※引率教員の方にはワークショップへの参加や、高校生の活動発表への講評等をお願いする予定です。
 ※ご記入いただいた個人情報はプログラム運営に必要な範囲においてのみ使用いたします。また、情報の取り扱いは主催者及び事務局のみとし、第三者には一切提供いたしません。

ふりがな			
※学 校 名			
※連 絡 先		〒	
		TEL	FAX
※担 当 教 員	※ふりがな		
	※氏 名	※緊急連絡	(携帯電話など)
	※Eメール		
※引率者	<input type="checkbox"/> 担当教員と同じ <input type="checkbox"/> 担当以外(氏名: _____ /連絡先: _____)		
交通手段	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 <input type="checkbox"/> 送迎 <input type="checkbox"/> 自転車・徒歩 <input type="checkbox"/> その他(_____)		

◆参加生徒名◆

①	※ふりがな		※学年	年	※性別	男・女
	※氏名					
②	※ふりがな		※学年	年	※性別	男・女
	※氏名					
③	※ふりがな		※学年	年	※性別	男・女
	※氏名					
④	※ふりがな		※学年	年	※性別	男・女
	※氏名					

お申込み/お問合せ先

E-Mail: jicatbic_kaihatsu@icnet.co.jp

FAX : 048-600-2501 /TEL:080-9173-9935

JICA 筑波 開発教育支援事業運営事務局 担当：渡邊・日暮

申込締切：2021年11月15日(月) 17:00 必着

※申込順に応募を受け付け、定員に達した時点で締め切りますので、お早めにお申し込みください。